

[社 会]

# 社会的事象を多角的に考察し、 他者とかかわりながら自分の考えを表現する児童の育成

－第5学年「水産業のさかんな地域」の実践から－

松井 寛明\*

## 1 はじめに

近年、人口構造や産業構造の変化、テクノロジーの進展、産業構造の変化、働き方の多様化など、社会の在り様は大きく変化し、予測困難な時代と言われている。そのような時代を生きる子どもたちには、社会の諸課題を正確にとらえ、解決するために何ができるかを考える力が必要だと考える。社会における諸課題を解決するためには、様々な視点から対象とする物事を見つめることが欠かせない。様々な視点とは、人々の立場、事象がおきた時間的な位置や空間などであり、その上で、自分なりの解決策を見い出すことができるようにしたいと考える。小学校学習指導要領解説（社会編）でも、『社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を比較・分類・関連付けしながら、多角的な思考で課題を追究したり解決したりする』ことが求められている。

しかし、本学級には課題があった。授業の振り返りでは、知識の習得に終わったり自分の考えだけで思考を止めてしまったりする記述が見られていた。得た情報を整理することができず、選んだり比較したりして深めることができない様子であった。現在学んでいる事象について分析を伴った考察をし、その内容や課題解決策を自分の言葉で表すことに弱さがあった。知識を活用して多角的に考察し、課題を追究する学習をすることで、考えたことを自分の言葉で表すことができるようにしていきたい。

これまでの実践研究で、中川（2018）は、「課題に対して共通感覚をもつことで、子どもたちの対話が成り立ち、思考を深めることができる。」と、社会的事象を自分なりの見方で捉える必要性を説いている。西塚（2016）は、「思考ツールで社会的事象を捉える力を伸ばし、振り返りで事象の意味を自分なりに言語化すること」の重要性を述べている。これら2者の実践は、課題を児童の身近なものにしたり思考ツールを使ったりして、児童の思考を促す手立てを工夫している。そして、思考の深まりを生んだり自分の考えを確かなものにしたりするためには、他者との対話が重要であることを主張している。

これらのことから、社会的事象を複数の視点や立場で捉え、考えたことを整理するための思考ツールで他者と意見交流をすることで、考察したことを自分の言葉で表現することができるのではないかと考えた。本研究では、この学習指導の在り方について、明らかにしたい。授業においては、水産業にかかわる事象を取り上げ、立場を決めて意見を交流する活動を行う。その際、自分の主張を裏付ける根拠となる資料をもとに話し合いを進めていく。単元の後半には、蓄積した自分の考えや友達を考え、資料からの情報などを比較・分析しながら自己の考えを広げたり深めたりすることで、自分の考えに自信をもって生き生きと伝え合う姿を期待する。

## 2 研究の目的と方法

本実践では、社会的事象を多角的に考察し、他者とかかわりながら自己の考えを広げたり深めたりするなかで、考察したことを自分の言葉で表すことができるようにすることをねらっている。次の三つがそのねらいを達成するための有効な手立てとなるのかを、児童の変容を基に明らかにする。

### (1) 手立ての内容

#### ① 児童の多角的な思考を促す課題提示

これまでの実践を振り返り、主体的な学習、児童同士の必然的な対話を生むような課題提示が十分でなかったことが多い。長橋（2017）は、児童の多角的な思考を促し、課題解決に向けて意欲的に学習課題に向き合うようにするための方策の一つとして、課題提示の重要性を説いている。思考のズレが生まれる学習課題にしたり、自分の立場を決めて児童同士で比較できる問題を提示したりすることで、課題に正対し、自己の考えをより深く見つめなおすことができると考える。児童同士自分とは異なる考えを聞き合い、社会的事象について多様な見方をしたり自分の考えを深めたりする

---

\*長岡市立上組小学校

姿を目指す。

② 複数の視点や立場から考えたことを整理・交流するための思考ツール活用

社会科では、教材として扱う事象や、人物の工夫や願い、背景を受け止め、その影響について思いを巡らせることが大切だと考える。その人物の行為の根拠や理由、多様な人々の立場を理解することで、自己の考えでは及ばないような広い視野、多角的な視野で物事を捉えることができるからである。

西塚（2016）は、思考ツールを使うことで異なる視点から得た情報をつなぎ、新たな考えを導き出すことができたと述べている。ツールを多角的な視野で物事を捉える際の一助とし、情報を整理し、比較・関連付けして考えを導き出せるようにしたい。

本研究では、児童が必要な情報を選んだり比べたりするなどして、考えたことを整理しやすくするために思考ツールを用いる。Yチャートは3つを比較するのに適しており、漁法の比較で用いる。漁師の立場から各種漁法の違いを比べさせるためにYチャートで児童の意見を整理する。生産者と消費者の立場という複数視点のメリットデメリットの比較には、整理表を用いる。そうすることで、細切れであった情報を分かりやすく整理したり、情報を関連付けしやすくなりすることができる。その際には、自分の考えの根拠となる資料を明確にした対話ができるようにする。

③ 自分の考えを見つめなおす場の設定

授業ごとに学習課題に対する考えをタブレット端末でスプレッドシートに書き溜め、自らの考えを振り返る場を設定する。スプレッドシートを学級内で共有し、自分とは異なる考えを見聞きしたり、自分の考えの変遷を確認したりすることで、社会的事象について見方を広げたり、自分の考えを広げ深めたりすることができるようにしたい。

「自分以外の人の立場で考えることで、自分だけでは思い付かないことを考えるようになった」「資料を基に自分で考えていたが、友達の意見に共感して自分の考えが変わったし、そこに自信がついた」というように、新たな考えを生み出したり自分の考えに自信をもって伝えたりする姿を目指す。

(2) 検証の方法

①スプレッドシートで書き溜めた児童の振り返りの記述による評価を行う。抽出児童の記述を分析し、多角的な考察が表れたかどうかについて児童の変容を確認する。

②「友達と意見交流をしたり、資料から分析をしたりして分かったことを自分の言葉で表すことができたか」を聞き、児童の割合で数値の変化を分析し、変容を確認する。

3 授業の実際

(1) 児童の実態

5学年30名（男子17名、女子13名）を対象として、令和5年9月から10月に授業を行った。対象の学校は内陸部に位置しており、漁業という仕事は児童にとってあまり馴染みのないものである。授業で自分の考えを表す場面においては、気付いたことを話すことはできるが、分析を伴う考察と言葉で表すことに難しさや苦手意識を感じている。アンケートでも、考えたことを自分の言葉で表すことについては、「なんとなく思っていることはあっても、言葉にすることが難しい」と答える児童がいたように、得た情報を比較・関連付けて自分の考えを表現するところには至っていないことが分かる。

(2) 単元名「水産業のさかんな地域」

(3) 単元の目標

地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して情報を適切に調べ、まとめる技能、水産業に関わる人々の働きを多角的に考える力、水産業に関わる課題を把握して、これからの水産業の発展について考え、説明する力を養う。

(4) 単元計画（全10時間）

| 次 | 時 | ◎多様な考えが生まれるような課題<br>■予想される児童の反応                                                                  | ○追究する学習活動<br>( ) 活用する思考ツール                                                 |
|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1 | ◎単元を貫く学習問題：なぜ日本の魚は「よい」とされているのか？<br>■漁場がよいから。（漁場）、漁の方法がうまいから。（漁法）、新鮮に運べるから。（輸送法）、料理の仕方が上手だから。（加工） | ○初めて来た外国人をもてなすための料理は何かと、その理由を考える。<br>○単元を貫く学習問題を設定する。                      |
|   | 2 | ◎どうして日本の周りの海は、漁によい漁場といわれているのだろうか？<br>■魚の種類が多いからだと思う。                                             | ○日本の周辺で獲れる水産物の種類や産地、海域の特徴を資料から読み取って考える。                                    |
|   | 3 | ◎どうして同じ魚を獲るのに漁法を変えているのか。あなたが漁師ならどの方法にする？<br>■たくさん獲りたいけど、傷がついたら（自分が食べるとしたら）嫌だから一本釣り漁にするとする。       | ○マグロの一本釣りと巻き網漁を例に、漁法を変える理由について、漁師の立場になりきって予想したり調べたりする。（3つの視点を比較するためのYチャート） |

|   |    |                                                                                                                             |                                                                                       |
|---|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
|   | 4  | ◎水揚げから食卓に届くまでに、魚の質を保つためにどんな工夫をしているのだろう。あなたが思う工夫No.1の方法は？<br>■トラックに冷やす機能があったから新鮮なんだと思う。                                      | ○水揚げから食卓に届くまでの工程に着目し、関わる人々の仕事の工夫を探る。                                                  |
| 2 | 5  | ◎鰹節の作り方やどんな料理に使われているかを調べて、紹介し合おう。<br>■業者さんは、衛生面を大事にしている。鰹節はどんな料理に使えそう！                                                      | ○カツオ節の作り方について、予想したり調べたりする。調べた意見をオクリンクで共有し、内容を確認する。                                    |
|   | 6  | ◎養殖は、日本の魚の「よさ」に関係しているか、否か？<br>■安全なえさで育てているから、養殖の魚もおいしいと書いてある。だから関係あり！<br>■運動不足だし、抗生剤を使うこともある。だから関係なし！                       | ○養殖が質のよさに関係しているかどうか、水産業者と消費者の立場からメリットとデメリットを調べ、それを根拠として考えをまとめる。                       |
| 3 | 7  | ◎日本の魚のよさがあったのに、なぜ、日本も輸入しているのだろうか？水産業者、消費者の視点から考えてみよう。<br>■水産業者は200海里水域制限というものが関わっていて、仕方なく輸入している。消費者は日本では獲れない他の種類も食べたいのだと思う。 | ○水産資源に恵まれた日本がなぜ輸入をしているのかについて、資料をもとに水産業者と消費者の思いを考える。思考ツールを使って考えを整理する。(情報を整理分析するための整理表) |
|   | 8  | ◎新たに回転寿司屋がオープンします。外国産を扱う会社と日本産を扱う会社のどちらの立場で寿司屋に売り込む？<br>■外国産は、最近は輸送方法も発達していて新鮮ですよ。日本産は、新鮮で安全管理もよいです。ただし、値段は高いですよ。           | ○水産業者と消費者の立場から課題を捉えてまとめた資料を基に、本時の課題に対する考えの根拠を明らかにして考察する。(第3時のYチャート、第7時の整理表)           |
|   | 9  | ◎なぜ日本の魚は「よい」とされているのか？<br>■漁場がよいからというだけの予想だったけど、輸送の方法や友達の話も聞いて、質がよいというのは業者の努力も関係している。                                        | ○これまでの資料やスプレッドシートの内容を振り返り、漁場、漁法、輸送、加工の観点から情報を整理する。                                    |
|   | 10 | ◎これからの水産業に大切なことは何だろう？自分の考えを書き表そう。<br>■水産業者：海の資源や環境を守る。海の生き物が減ると、水産業が続けられないから。消費者：国内の水産物を残さず食べる。それは、消費量が減ると生産量も減ってしまうから。     | ○これからの水産業に大切なことについて、水産業者と消費者の立場から考える。これまでにまとめた資料やスプレッドシートの内容を根拠にする。                   |

## (5) 授業の実際

### 【手立て① 児童の多角的な思考を促す課題提示】

単元の中で、多様な考えが生まれるような課題設定を行ってきた。まず第1時には、初めて日本に来た外国人をもてなすための料理は何かと問いかけた。児童からは、「寿司」「刺身」など、水産物を答えるものがほとんどであった。そこで、「私たちはなぜ魚を1番に取り上げるのか、日本の魚がよいとされる理由は何か」を追究していく学習問題を設定した。児童の予想内容をオクリンクで共有し、学級で話し合うと、「日本の周りの漁場がよいのではないか」「日本は漁法がよいのではないか」「輸送方法がよいのではないか」「加工の仕方がよいのではないか」という4つに分類することができた。4つの追究課題を調べていき、最後に比べ合いながらまとめていくこととした。児童が予想を出し合い比べる中で、「絶対に漁法だよ。釣りの道具をもっているけど、すごい機能いっぱいあるもの！」と、自分の経験から考えたり、「漁場は他の国も似たようなものだけど、輸送はトラックの性能がすごそう。」と、他の意見と比べて考えたりする姿が見られた。予想が様々に分かれたため、他者に比べて自分の考えを分かってもらいたいという意欲が増したようであった。

第3時では、マグロの一本釣り漁と巻き網漁と延縄漁を例に、漁法を変える理由について、漁師の立場に立って考えた。「あなたが漁師ならどの方法で獲るか」と問いかけ、自分の立場を決めて、その根拠を調べることにした。それぞれの漁法について、量、品質の確保、コストなどから判断できる資料を提示し、それをもとにどの方法にするかを自分なりに決めて考えを比べ合った。児童は、たくさんの量を獲る延縄漁だが、網の中で魚が傷ついてしまうという点や、品質を保って獲ることができ一本釣り漁だが、コストパフォーマンスに欠けるという点などに気付き、伝え合うことができた。妥協点を探る中で、漁師の漁法の工夫や、よい魚を届けたいという思いは漁法に関係なく共通していることだと考えることができた。また、自分が選んだ漁法のよさを知ってもらいたいという思いから、熱心に資料を読み込んでメリットやデメリットを分析する姿が見られた。

日本の魚がよいとされる要因を探ったり、漁法の違いを考えたりする課題を提示することで、多様な気づきが生まれ、多角的な視点で友達同士で比べ合って考えようとする姿が見られるようになった。

### 【手立て② 複数の視点や立場から考えたことを整理・交流するための思考ツール活用】

第3時で、マグロ漁を例に、資料を根拠に自分ならどの漁法がよいかを考えた。一本釣り漁、延縄漁、巻き網漁、それぞれの漁法について、「一本釣り漁は、時間がかかるけど、自分のものにできる。」「巻き網漁は、一度にたくさん獲れる。」といったように、児童はそれぞれの選んだ立場から気付いたことを思いつくまに話した。Yチャートは3つ



の比較ができる。そこで、漁法の特徴の違いを分かりやすく捉えさせるために、児童の意見をYチャートで板書に整理した。

|                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------|
| Yチャートでの情報整理によって、複数の視点や立場からの意見を関連付けて考え始めた場面                                     |
| C1：一本釣りしかないよ！だって一人で釣っちゃえば、給料も自分のものにできるじゃん。                                     |
| C2：ほくも。一本釣りって、自分のものだっていうロマンがあるよね。                                              |
| C3：私は、巻き網漁がいいと思った。一度にたくさん獲れるって書いてあるし、簡単なほうが楽！とにかく楽なのが一番いい！                     |
| C4：ほくも巻き網漁がいいな。とにかくたくさん獲ったほうが給料儲かりそうだし！                                        |
| C2：でも、一本釣りだっけとずっとやってればたくさん獲れるよ。だって6時間くらい釣っているって書いてある。                          |
| C3：巻き網漁は、やっぱりたくさん獲れるよね。でも傷がつくっていうのは、デメリットのところにしよう。                             |
| C1：巻き網漁は、たくさん獲れるし、一本釣り漁は（漁獲量が）少ない。しかも、一本釣り漁は、ギャンブルみたいで、釣れたらいいけど、安定しないって感じがしたな。 |
| C4：（悩みながら）やっぱり、巻き網漁が一番かな。どっちもよさそうでよくなさそうで、でも、安定っていうのは、働いている人にとったらすごい大事な気がする。   |
| C1：あと、ガソリン代も船の数で違うんじゃない。                                                       |
| C4：（メリットデメリットを指差しながら）なるほど、それで比べたら、一本釣りのほうがいいって思う。                              |

児童は様々な捉え方をしており、それぞれ、自分の考えに理由を挙げていることが分かる。C3児は、巻き網漁を選択し、「一度にたくさん獲れる」と理由を挙げていた。しかし、一本釣り漁の「漁に時間がかかる」というデメリットに関する発言を聞き、下線のように、巻き網漁では網の中で魚に傷がついてしまうという点に注目し始めた。それを受けて、全体でも一本網漁と巻き網漁の比較が始まった。C1児は始め、「釣り上げた魚を自分のものにできる」という理由で一本釣り漁を選んでいましたが、漁獲量の少なさや燃料代のコストといった部分に目を向け、「漁獲量が安定しない」ことを危惧するようになった。これは、他の漁法を、量、品質の確保、コストなどといった複数リットを比べ合ったり関連させたりしながら思考したことが分

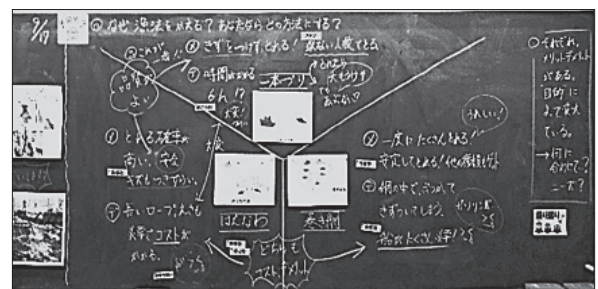


写真1 第3時の板書（Yチャート）

児童は、授業後の振り返りで「始めは、一本釣り漁を選んでいただけ、巻き網漁の獲れる量が多いというメリットをとったほうがよいと思って、考えが変わった。」「延縄漁と巻き網漁のコストが似ていると思った。でも、品質の点から考えて、品質がよいのは延縄漁だと考えた。」と答え、それぞれの気づきを比較し合って考えを述べることができていた。

第7時では、これまでの日本の水産物のよさの追究に対して、「よい水産物があるにもかかわらず、なぜ日本も輸入をしているのか」と課題を設定した。水産業者と消費者の立場から、資料をもとに輸入している理由を追究することとした。はじめ児童は、それぞれの立場のメリットデメリットを一つずつ書き入れていた。メリットとして、「(労働の部分に着目して)水産業者は、若い人手が足りないから輸入をして、少しでも楽になるといいよね。」、デメリットとして、「水産業者が獲った日本産の魚は買ってくれなくなるかもしれない。」などと話して意見を交流していた。一つの項目について考えるという点においては焦点化され、考えやすくなったようであったが、関連付けた思考には不十分であった(図1)。そこで、それぞれの立場になりきって考えられるよう



| 社会 #水産業 #フリックス #輸入をするギルト・テマリト                                                               |                                                                                                                                                                 | ( 2 ) 増                                                                                                                               |                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                             | メリット                                                                                                                                                            | デメリット                                                                                                                                 | ○悪いと願いの<br>■悪い                                                                                                                     |
| 水産業者<br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人手が足りなくて、困っているから、輸入してもうけよう!</li> <li>○ 船、カンパシ料も安くできるから!</li> <li>○ 船隊があとから増えて、運搬が、切れる、そんなところの、魚は、輸入してもうけよう!</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国の魚を買わなければならないから、魚を、買ってくる、安くはないかい?</li> <li>○ 外国へ、船送、で、せい、から、それ、輸入、する、から、それ、は、ね?</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国の魚を買う、から、魚、の、買、い、手、が、あ、る、から、それ、は、ね?</li> <li>○ 外国の魚、の、買、い、手、が、あ、る、から、それ、は、ね?</li> </ul> |
| 消費者<br>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本で、とれる、魚、は、少ない、から、魚、を、買、い、たい、から、輸入、する、から、それ、は、ね?</li> <li>○ 外国の魚、の、買、い、手、が、あ、る、から、それ、は、ね?</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国の魚、の、買、い、手、が、あ、る、から、それ、は、ね?</li> <li>○ 外国の魚、の、買、い、手、が、あ、る、から、それ、は、ね?</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国の魚、の、買、い、手、が、あ、る、から、それ、は、ね?</li> <li>○ 外国の魚、の、買、い、手、が、あ、る、から、それ、は、ね?</li> </ul>         |

図1 班ごとに書いた思考ツール（整理表）

に、整理表の情報を見比べてお互いを納得させるような主張をし合うよう指示をして、説得力を増すように促した。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>整理表を用いて、複数の視点や立場からの意見を関連付けて考え始めた場面</p> <p>C1: (水産業者として) 働くのって大変。時間も長いね。もっと人手を増やすか、輸入に頼ってもいいんじゃないかな。でも、消費者が日本のものを買わなくなるのは困るよね。</p> <p>C2: 外国産は品質も気になる。日本は養殖だけにするのもよくない?</p> <p>C3: (消費者として) それだと、食べる種類が少ないから、輸入はしてほしい。</p> <p>C4: 日本は養殖の技術がすごく高いものね。でも、ノルウェーの資料を見ると、サーモンの養殖の技術も高いみたいだよ。</p> <p>C2: (消費者として) 日本の品質は大丈夫そうだけど、外国の水産物の品質もいいみたいだね。じゃあ2つの意見を混ぜるしかないよ。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

C1児からは下線のように、「(水産業者として) 働くのって大変。時間も長いね。もっと人手を増やすか、輸入に頼ってもいいんじゃないかな。でも、消費者が日本のものを買わなくなるのは困るよね。」と、水産業者と消費者の2視点で考えた意見が出た。C2児は、「(消費者として) 日本の品質は大丈夫そうだけど、外国の水産物の品質もいいみたい。」と、表を指差しながら説明し合い、考えを比べ合ってまとめる様子も見られるようになってきた。資料の情報をもとにして、それぞれの立場からみたメリットデメリットを関連付けた考えが生まれた。終末では、輸入する理由には、獲れる魚の種類や消費者のニーズ、外国との取り決めなど、様々な要因があることを理解することができた。それぞれの項目について、思いついたままに気付きを述べるだけであったが、整理表で複数の立場から考察したことがまとめられ、課題に迫ることができた。

### 【手立て③ 自分の考えを見つめなおす場の設定】

第9時では、単元を貫く学習問題である「なぜ日本の魚は“よい”とされているのか。」について考え、第10時では、発展として、「これからの水産業に大切なことは何だろう?」という課題について、考えをまとめた。授業ごとに意見をまとめていたスプレッドシートの学びに立ち返った。自分の考えだけでなく、他の児童が何を調べ、何を感じているのかも確認する時間をとることで、課題解決的な思考の一助となった。

これからの水産業に大切なこととして、「(水産業者として) 若い人に、魚のおいしさや水産業者の魅力を伝えるCMをつくる。品質を保つ輸送の仕方は、工夫が詰め込まれているので未来にも引き継ぐ。」「(消費者として) 国産の魚も進んで食べる。そうしないと、ますます生産量も減ってしまうから。」など、それぞれの立場に立った様々な意見やアイデアが出てきた。最終的な単元の振り返りでは、「●●さんが書いていた“輸送は、時間の短縮方法や冷やす手間とかがすごい”ということから、ただ魚を獲るだけじゃなくて、消費者においしいものを運ぶ工夫も大切にしていると感じた。」というように、社会的事象における様々な立場の考え、友達の考えなどを関連付けて記述する児童が多かった。多角的な視点で課題に対して考えを見つめ、自分の意見に自信をもって伝える児童の姿が見られるようになった。

## 4 研究の考察

### (1) 児童に多角的な考察が見られた具体的場面

#### ① 抽出児A児とB児の記述から

表1 児童の振り返り記述 (A児：考えを発表することが得意な児童 B児：考えの表出が不得意な児童)

|    | 第1時授業後の学びの記述                                                                                                                         | 第7時授業後の学びの記述                                                                                                                                                                                                      | 第10時授業後の学びの記述                                                                                                                                                                          |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A児 | 日本の魚が新鮮だったり、おいしかったりして質がよい理由は、外国よりも海にゴミが少なかったり、 <u>漁でとった魚をすぐに市場などに送るから</u> だと思います。もう1つの新鮮で質がよい理由は、 <u>竿で1匹1匹釣っているところがあるから</u> だと思います。 | 消費者と水産業者には共通の悩みなどがある。水産業者さんの人が魚を獲れないなってなるときは、消費者の人は魚が最近高いってなっていて <u>水産業者の悩みと消費者の悩みはリンクしてる</u> 。最近水産業者の仕事をする人も減ってるし、大変だになって思って辞める人も多いと思うから政府が給料を上げるとかをしてほしいです。思考ツールにまとめてみたら、 <u>魚にいろんなこと(立場)が関わっているんだな</u> と思いました。 | 私は、水産業者さんが働くのが大変というのがやっぱり印象的でした。でもそうじゃなくて、もっと働く楽しさや魅力とかがみんなに伝わればいいなと思いました。労働人口という資料を見ました。資料を見ると、 <u>人がいなくなるピンチをもっと教えたり、楽しさを教えたりして、大変さより魅力をPRしていきたい</u> です。それができたら、これからも安定して魚を獲れると思います。 |
| B児 | 日本の魚がよいとされる理由は日本の海岸や海が関係していると思います。たくさんエサがある海で魚をすると質がいいお魚がたくさん取れると思いました。 <u>それを調べていきたい</u> です。外国人は、日本の魚が珍しいのかなと思いました。                 | ぼくは、水産業者さんがどんな危機なのかを調べて <u>水産業者さんの気持ちになってみました</u> 。「獲れる魚の量がどんどん減っている」という資料を見ました。特に遠洋漁業が大幅に獲れる量が少ないことが分かりました。きっと獲りたいけれど獲れない今の現状を見て、 <u>本当につらいんだろ</u> うなと思いました。このままだと働く人がいなくなってしまうと思いました。                           | ぼくは、 <u>養殖にもっと力を入れて、国がそれを世界に広めれば</u> いいと思いました。魚を捕りすぎたら、いつか無くなるし、そもそも獲る仕事なくなるかもしれないから、養殖でおいしい魚が食べられればいいと思います。 <u>養殖のレベルを上げて、沿岸漁業も続けるという二刀流ですれば、水産業者さんも大変すぎないかな</u> と思います。               |

第1・7・10時の授業後の振り返り記述には、水産業の実情、漁の仕方などの学んできたことを根拠にして、自分なりの考えを自信をもって表出していた。A児の第1時の振り返りには、輸送や漁法など、多くの観点に気付く記述が

あった。課題に対し、気付いたことを思うままに述べていることが分かる。それが第7時では、「水産業者の悩みと消費者の悩みはリンクしている」「思考ツールにまとめてみたら、魚にいろんなこと（立場）が関わっている」とあるように、2者の立場から考えを比べ始めている。第10時では、これまでの資料をもとに、労働状況に着目して「人がいなくなるピンチをもっと教えたり、楽しさを教えたりして、大変さより魅力をPRしていきたい」と課題を自分事として捉え、自分の考えを述べる事ができていた。B児は、第7時で「(遠洋漁業に関する資料から) 本当につらいんだろうな」と述べ、水産業者の思いに深く共感していた。そこから第10時では、「養殖に力を入れる」「それで水産業者も大変すぎないように」と記述し、水産業者の立場からの考えと学んできた水産業の技術という知識を関連させて考えることができた。これは、多角的に考察し、自分の考えを表現することができたのは、ツールで情報を整理しながら友達と考えを交流することで、自らの思考をまとめることができたからだと考える。

## ② 単元の前後における児童の学習アンケート比較から

| 児童への質問 (対象児童：男子17人、女子13人 計30人)<br>4 (とてもよくできる) 3 (できる) 2 (あまりできない) 1 (できない) | 本単元前  |       | 本単元後  |       |
|-----------------------------------------------------------------------------|-------|-------|-------|-------|
|                                                                             | 肯定的評価 | 否定的評価 | 肯定的評価 | 否定的評価 |
| ①社会科の授業は好きですか                                                               | 76.7% | 23.3% | 83.3% | 16.7% |
| ②自分の考えを発表（表出）することは得意ですか                                                     | 36.7% | 63.3% | 46.7% | 53.3% |
| ③自分で課題を発見することは得意ですか                                                         | 46.7% | 53.3% | 50.0% | 50.0% |
| ④資料を読み取ることは得意ですか                                                            | 63.3% | 36.7% | 86.7% | 13.3% |
| ⑤友達と意見交流をしたり、資料から分析をしたりして分かったことを自分の言葉で表すことは得意ですか                            | 33.3% | 66.7% | 63.3% | 36.7% |

アンケート項目②③の結果から、社会事象を自分なりに捉え、課題意識をもって授業に臨んでいたことが分かる。このことは、「自分が漁師ならどんな方法で漁をするか」という学習問題で、様々な漁法から自己選択して考えを述べたり、輸入をする理由を探って、自分とは違う立場の考えをもつ友達を納得させるために考えをまとめたりするなどの学習活動によって、多角的に社会事象を見つめることができたからだと考える。

アンケート項目④⑤の単元の前後で肯定的評価の数値がとりわけ上がっている。この結果からは、資料をもとに思考し、友達とかかわりながら自己の考えを広げたり深めたりすることで、社会科での意見表出に自信をもつことができたといえる。第7時で「なぜ日本も輸入をしているのか」の問いに対して、思考ツールで情報を整理しながら他者と交流したことで多角的な考察が促され、第10時で「これからの水産業に大切なことは何だろう？」という課題に対して自らの学びに立ち返ったことで、自身の考えが確かなものとして表現されるに至ったのだと考える。

## (2) 課題

実践を通して、児童は資料の情報や他者との関わりから、思考ツールで気付きを整理し、比較したり関連付けたりして考えを表出することができた。一方で、使用するツールは教師が提示したことが課題として挙げられる。児童の主体的な学びを促すためには、児童自身が様々なツールを選択しながら思考を整理できるようにすることも必要であると感じた。そのために今後、様々な思考ツールやその活用法について、有効性を検証していく。

これからの実践で、課題解決に向けて児童が自ら学習手段を選択し、他者とかかわりながら情報を整理したり考えを再構築したりすることができるよう授業を展開していきたい。

## 5 参考文献

- 中川玄祐「共通感覚を起点に思考を深める児童の育成に向けた取組」『上越教育大学教育実践研究』 第28集, 2018年, pp.43～48
- 長橋俊文「社会的事象を自分事として捉え、問題解決を通して社会的視野を広げる児童の育成」『上越教育大学教育実践研究』 第27集, 2017年, pp.37～42
- 西塚智行「歴史を学ぶ意味を実感する物語り」『上越教育大学教育実践研究』 第26集, 2016年, pp.43～48
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版, 2018年, pp.17～28